Y12a 「銀河学校」と「もし天」、その他天文学実習の連携についての考察

三戸洋之 (東京大学), 板由房, 田中幹人, 服部誠 (東北大学), 岩崎仁美 (仙台市天文台・東北大学)

「銀河学校」は、東京大学木曽観測所で 1998 年より行われている、全国の高校生を対象とした合宿型の天文学実習である。「もしも君が杜の都で天文学者になったら (略称：もし天)」は、東北大学天文学専攻と仙台市天文台で 2010 年より行われている天文学実習である。

銀河学校がはじまった 1998 年当時、高校生が大学の研究現場に行き、最先端の研究を体験する、という実習は少なかった。そのため、社会からの注目度も高く、応募者数が 300 名を超えるほどの反響があった。その後、2002 年より日本学術振興会により、SPP(サイエンスパートナーシッププロジェクト)、SSH(スーパーサイエンススクール) といった施策が開始され、現在では、多くの機関で科学実習イベントが盛んにおこなわれるようになった。

このような状況となり、各機関が独立に実習を行っている現在の状況から、連携して実習を行う体制へと変えた場合の効果について考察した。例えば、連携する利点として、生徒が実習を選択する際の余地が広がることが挙げられる。これまで、実習に参加した生徒に聞くと、他の実習について知らない生徒が多く、近くで行われる実習を知らず、やむなく遠方から参加したという生徒も多くいた。また、この背後には、実習に行きたくても、開催地が遠方なので行けない、という生徒が多くいる可能性も考えられる。各機関が連携し、各実習の情報を発信することで、このような生徒への対応が実現される。このほかの利点としては、これらの教育活動の社会に対する可視化が進むことで、社会への認識が広まることも挙げられる。

今回の発表では、銀河学校ともし天の特色を比較し、その他の天文学実習も含めて、これらが連携した場合の効果について考察した結果を示す。